英文解釈 L01 第 4 講 目的語と補語から動作の担い手を読む

学習目標

目的語と補語の関係を捉え、誰がどの状態にあり、誰が動作するのかを訳し分けられる。

共通凡例

S・V・O・C・M は、主節の中での役割を示す。S は主語、V は述語動詞、O は目的語、C は補語、M は修飾語句を表す。機能括弧は別の観点で、**名詞〈〉・形容詞〔〕・副詞()**のように、まとまりが文中でどのように働くかを示す。C という役割だけで名詞・形容詞のどちらかが決まるわけではない。

C の内容を読むときは、主節の S が何をしたかと、C が誰・何について述べているかを分けて考える。名詞 C は O の呼び名や役割を、形容詞 C は O の状態や性質を述べる。役割間の矢印は指定した関係を示すもので、因果関係や動作の実行を保証するものではない。

補語の内容を目的語に戻して読む

解説

英文の主語 S は、主節で何をするか、どんなことが起きるかを考える出発点になる。しかし、文の後半にある呼び名や状態が、いつも主語について述べているとは限らない。目的語 O と補語 C があるときは、C が誰・何について説明しているのかを O に戻して確かめる。

名詞の補語 C：呼び名や役割を表す

語注：

- leader：指導者、集団を導く人

〈The students〉 called Maya 〈a good leader〉 (after 〈the meeting〉).
S V O C M

C “a good leader” → O “Maya” / a good leader は目的語 Maya の呼び名・役割を述べる名詞補語。
M “after the meeting” → V “called” / after the meeting は called の時を示す。

「生徒たちは会議の後、マヤをよいリーダーと呼んだ。」

ここでは、a good leader は Maya の呼び名や役割を表す名詞のまとまりだ。主語の The students を説明しているのではなく、目的語 Maya について述べている。

©ミライコーチング

解説

形容詞の補語 C：状態や性質を表す

They kept 〈the room〉〔very quiet〕(during 〈the test〉).
S V O C M

C “very quiet” → O “the room” / very quiet は目的語 the room の状態を述べる形容詞補語。
M “during the test” → V “kept” / during the test は kept の状況を示す。

「彼らはテスト中、その部屋をとても静かな状態に保った。」

very quiet は形容詞を中心とするまとまりで、目的語 the room の状態を表す。形容詞 C は目的語そのものではなく、O がどのような状態にあるかを説明する。

名詞 C と形容詞 C は、品詞だけでなく、述べる内容の違いにも注目すると区別できる。a good leader は呼び名・役割を示し、very quiet は性質・状態を示している。どちらも目的語について述べるが、説明している内容は異なる。

主語だけを追うと、後ろの内容まで主語について述べているように誤読しやすい。そこで、まず主節の S と V を押さえ、次に C の内容を確かめ、その呼び名や状態が当てはまる対象を O に戻す。この順で読むと、誰が何をしたかと、誰・何についてどんな内容が述べられているかを分けて訳せる。

C の内容を O に戻す

名詞 C は O の呼び名・役割を、形容詞 C は O の状態・性質を述べる。C の内容が誰・何に当てはまるのかを O に戻して確かめることが、正確な解釈につながる。ただし、O と C をいつでも単純な等号で結べるわけではなく、因果関係を表す普遍的な公式でもない。

©ミライコーチング

分詞の補語は動作と対象の関係から読む

解説

補語 C に動詞の ing 形や過去分詞形が現れると、主節の動詞と取り違えたり、過去分詞を見て文全体を過去の出来事だと判断したりしやすい。ここでは、分詞が表す動作や状態を、目的語 O との関係から読み分ける。

現在分詞 C：O が動作をしている

語注：

- delay：遅れ、遅延
- passenger：乗客

〈The long delay〉 kept 〈the passengers〉 waiting outside (for 〈an hour〉).
S V O C

S “The long delay” / 主節の主語。
V “kept” / 主節の述語動詞。
O “the passengers” / waiting の動作の担い手となる目的語。
C “waiting outside for an hour” → O “the passengers” / waiting outside for an hour は目的語 the passengers の動作・状態を述べる。待つ動作の担い手は the passengers であり、主節の主語 the long delay ではない。

「長い遅延のため、乗客たちは 1 時間、外で待ち続けた。」

waiting outside for an hour は、目的語 the passengers について述べる補語 C だ。外で待つ動作をしているのは、主語の the long delay ではなく、目的語の the passengers である。waiting を主節の動詞と考えると、主語と動作の関係を取り違えてしまう。

解説

過去分詞 C：O が動作を受けた状態にある

語注：

- package：荷物、小包
- wrap：包む
- brown paper：茶色い包装紙、茶色い紙
- leave：〜をある状態のままにしておく

〈The workers〉 left 〈the packages〉 wrapped (in 〈brown paper〉).
S V O C

S “The workers” / 主節の主語。
V “left” / 主節の述語動詞。
O “the packages” / 補語が状態を述べる対象となる目的語。
C “wrapped in brown paper” → O “the packages” / wrapped in brown paper は目的語 the packages が包まれた状態にあることを述べる。過去分詞は他動詞 wrap の動作を受けた対象を表すが、包んだ人物は指定されていない。

「作業員たちは、荷物を茶色い紙で包まれた状態のままにしておいた。」

wrapped in brown paper は、目的語 the packages について述べる補語 C だ。こちらでは、荷物が包む動作をするのではなく、包まれた状態にある。過去分詞 wrapped は、他動詞 wrap の動作を受けた対象と、その結果の状態を表している。

二つの英文を比べると、現在分詞の例では O が動作をしており、過去分詞の例では O が動作を受けた状態にある。形だけを見て機械的に訳すのではなく、分詞が表す動作と O の関係を確かめることが重要だ。

また、主節の定形動詞はそれぞれ kept と left であり、どちらも過去形である。waiting や wrapped は主節の時制を決める動詞ではない。まず主節の定形動詞から時制を読み、そのうえで C の内容と O の関係を判断する。なお、過去分詞が常に受動を表すわけではない。この講では、他動詞の明確な例を通して、動作をする対象と動作を受けた状態の対象を区別する。

分詞 C は O との関係で読む

現在分詞 C では O が動作をしているのか、過去分詞 C では O が動作を受けた状態にあるのかを確かめる。時制は主節の定形動詞から読み、分詞の形だけで文全体の時制を決めない。

©ミライコーチング

主語と補語内の動作の担い手を分ける

解説

「誰かに何かをさせる」「誰かが何かをするのを見る・聞く」という文では、主節の主語 S と、後続する動作の担い手 O が異なることがある。最初の主語を見つけたあと、その人が文中のすべての動作をすると思い込まないことが重要だ。

使役：動作をさせる側と、動作する側

make・have・let は、いずれも基本形では「動詞＋O＋動詞の原形」という形を取る。ただし、意味は同じではない。

語注：

- lap：周回（競走路などを 1 周すること）

〈The coach〉 made Ken run 〈five laps〉.
S V O C

O “Ken” / Ken は後続する run five laps の動作の担い手。
C “run five laps” → O “Ken” / run five laps は Ken が担う動作を表す。主節の主語 The coach は動作をさせる側であり、走る動作の担い手とは異なる。

「コーチはケンに 5 周走らせた。」

make は、O に動作をさせることを表す。この文では、走る動作の担い手は Ken であり、コーチ自身ではない。

語注：

- carry：運ぶ

Mia had Tom carry 〈the boxes〉.
S V O C

O “Tom” / Tom は後続する carry the boxes の動作の担い手。
C “carry the boxes” → O “Tom” / carry the boxes は Tom が担う動作を表す。主節の主語 Mia は動作を手配する側であり、箱を運ぶ動作の担い手とは異なる。

「ミアはトムに箱を運んでもらった。」

have は、人に何かをしてもらう、または手配して行わせる意味を表す。箱を運ぶのは Tom であり、Mia ではない。make のように強制する意味と一律に捉えず、動詞ごとの意味を確認する。

〈The teacher〉 let Aya use 〈the room〉.
S V O C

O “Aya” / Aya は後続する use the room の動作の担い手。
C “use the room” → O “Aya” / use the room は Aya が担う動作として許可された内容を表す。許可したことは、Aya が実際に部屋を使ったことを保証しない。

「先生はアヤがその部屋を使うことを許可した。」

let は、O が動作をすることを許す意味を表す。部屋を使うのは Aya である。ただし、許可を与えたことと、実際に部屋を使ったことは区別する。許可があったというだけで、動作の実行まで断定してはいけない。

解説

知覚：動作全体と、動作の途中

see や hear などの知覚動詞では、O の後ろに動詞の原形または ing 形を置くことがある。基本的には、原形は動作全体、ing 形は動作の進行中の場面に注目する。

語注：

- cross：渡る、横切る

I　saw　Ken　cross　〈the street〉.
S　V　O　C

S “I” / 主節の主語。
V “saw” / 主節の述語動詞。
O “Ken” / 後続する動作 cross の担い手。
C “cross the street” → O “Ken” / cross the street は Ken が担う動作全体を捉える。主節の主語 I が道路を渡るのではなく、目的語 Ken が渡る動作の担い手である。

「私はケンが道路を渡るのを見た。」

cross は原形で、道路を渡るという動作全体を捉えている。見た人は I、渡る動作をする人は Ken である。

語注：

- cross：渡る、横切る

I　saw　Ken　crossing　〈the street〉.
S　V　O　C

S “I” / 主節の主語。
V “saw” / 主節の述語動詞。
O “Ken” / 後続する動作 crossing の担い手。
C “crossing the street” → O “Ken” / crossing the street は Ken が道路を渡っている途中の場面に注目する。主節の主語 I が渡るのではなく、目的語 Ken が渡る動作の担い手である。

「私はケンが道路を渡っているところを見た。」

crossing は ing 形で、道路を渡っている途中の場面に注目している。主節の主語 I が渡るのではなく、目的語 Ken が渡る動作をしている。

原形と ing 形の違いは、形だけを機械的に見て決めるものではない。どの場面を伝えたいかを確認する必要があり、文脈がないのに一方だけを常に正解とすることはできない。

読み違いを防ぐには、主節の S が何をしているかを確かめたあと、O と後続する動詞の原形・ing 形を結び付ける。使役では「させる・手配する・許す」、知覚では「見聞きする」という主節の働きと、O が担う動作を別々に捉える。さらに、実行された動作なのか、許可や依頼などが示されている段階なのかは、個々の動詞の意味、時制、場面に沿って判断する。

主節 S と後続動作の担い手 O を分ける

make・have・let では動詞ごとの意味を確認し、see・hear では原形と ing 形が示す場面の違いを読む。後続動作の担い手は O に戻って確かめ、許可・依頼・手配と実際の動作の実行を無条件に同一視しない。

O＋to 不定詞の動作主を読む

解説

ここでは、新しく、基本動詞に続く **O＋to 不定詞** の読み方を学ぶ。これまでの補語と同じように、後ろの内容が誰について述べられているかを確かめることが大切だ。ただし、すべての動詞が同じ形を取るわけではないため、動詞ごとの結び付きを確認する。

ask：人に〜するよう頼む

I　asked　Ben　to open 〈the window〉 (after class).
S　V　O　C

O “Ben” / Ben は to open 以下の動作の担い手。
C “to open the window after class” → O “Ben” / to open the window after class は依頼の内容を表す。窓を開ける動作の担い手は Ben であり、依頼した I とは異なる。依頼が実行されたことまでは示さない。

「私はベンに、授業の後で窓を開けるよう頼んだ。」

ask の後ろに「人＋to 不定詞」が続くと、その人に何かをするよう頼む意味になる。この文では、頼んだのは主語の I だが、窓を開ける動作を担うのは目的語の Ben である。依頼したことだけから、ベンが実際に窓を開けたとは断定できない。

tell：人に〜するよう指示する

語注：

- until：〜まで
- noon：正午

〈The teacher〉　told　us　to wait here (until noon).
S　V　O　C

O “us” / us は to wait 以下の動作の担い手。
C “to wait here until noon” → O “us” / to wait here until noon は指示の内容を表す。待つ動作の担い手は us であり、指示を伝えた The teacher ではない。指示が実行されたことまでは示さない。

「先生は私たちに、正午までここで待つように言った。」

tell も「人＋to 不定詞」という結び付きを取る。指示を伝えたのは The teacher であり、待つ動作を担うのは us だ。主語が先生だからといって、先生自身が待つという意味にはならない。また、指示を受けたことと、実際にそのとおり行動したことは別である。

解説

want：人に〜してほしいと思う

語注：

・join：〜に加わる、参加する

I　really　want　Amy　to join 〈our team〉.
S　M　V　O　C

M “really” → V “want” / really は want の程度を強める。
O “Amy” / Amy は to join 以下の動作の担い手として希望の対象になる。
C “to join our team” → O “Amy” / to join our team は希望する内容を表す。チームに加わる動作の担い手は Amy であり、希望を持つ I ではない。希望が実現したことまでは示さない。

「私はエイミーに、ぜひ私たちのチームに加わってほしい。」

want では、主語の I が望んでいる内容を、後ろの to 不定詞が表す。チームに加わる動作を担うのは Amy であり、I ではない。ここでも、望んでいることと、その希望が実現したことを混同してはいけない。

三つの英文では、ask・tell・want の意味はそれぞれ異なるが、いずれも「動詞＋O＋to 不定詞」という形で、O が to 以下の動作の意味上の主体になる。主節の S は、頼む・指示する・望む側であり、to 以下の動作を担う人とは限らない。

この関係は、語順だけで日本語の主語を決めるのではなく、動詞の意味と、O・to 不定詞の対応を根拠に判断する。ただし、この講で扱うのは ask・tell・want などの基本的な結び付きであり、すべての「動詞＋O＋to 不定詞」を一律に同じ文型へ当てはめる規則ではない。動詞ごとの語法を確認して読み分ける必要がある。

to 以下の動作を O に戻す

ask・tell・want では、主節 S と to 以下の動作の担い手を分けて読む。O が to 以下の動作を担うことを確かめ、依頼・指示・希望の内容を、実行済みの事実へ勝手に変えない。

1

朝、部屋で制服を見つけた場面を考え、次の英文を読め。

語注：

- uniform：制服
- neatly：きちんと、整然と
- fold：折り畳む

Mia found the school uniform neatly folded this morning.

a. 指定された補語「neatly folded」の内容と、その状態を表す対象の名詞を対応させよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

1

a. 解答・根拠

「neatly folded」は「the school uniform」の状態を述べている。きちんと畳まれた状態にある対象は、目的語の the school uniform である。

folded は他動詞 fold の過去分詞であり、この文では主節の動詞 found と区別して読む。制服がどのような状態だったかを表す部分を、主節の動詞と取り違えないことが判断の根拠になる。

Mia (S) found (V) 〈the school uniform〉 (O) neatly folded (C) (this morning) (M).

S “Mia” / 主節の主語。
V “found” / 主節の述語動詞 found。
O “the school uniform” / 補語が状態を述べる対象となる the school uniform。
C “neatly folded” → O “the school uniform” / neatly folded は the school uniform がきちんと畳まれた状態にあることを述べる。畳んだ人物は原文で指定されていない。
M “this morning” → V “found” / this morning は見つけた時を示す。

b. 和訳

直訳

ミアは今朝、学校の制服をきちんと畳まれた状態で見つけた。

満点の訳

ミアは今朝、学校の制服がきちんと畳まれているのを見つけた。

重要な誤読・許容差

原文が示すのは、制服がきちんと畳まれた状態で見つかったということだ。誰が畳んだのかは明示されていないため、ミアが畳んだと読める表現は避ける。「制服がきちんと畳まれているのを見つけた」のように、畳んだ人物を特定せず、見つけた時点での状態を保つ訳を許容する。

2

マネージャーが会議前の準備を担当者に任せる場面を考え、次の英文を読め。

語注：

・check：確認する

The manager has Leo check the room before each meeting.

a. 補語「check the room」の内容と、その動作の担い手を対応させよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

2

a. 解答・根拠

「check the room」は部屋を確認する動作を表し、その動作の担い手は Leo である。マネージャーは担当を任せる側であり、部屋を確認する動作をする人とは区別して読む。

〈The manager〉 has Leo check 〈the room〉 (before 〈each meeting〉).
S V O C M

S “The manager” / 主節の主語。
V “has” / 主節の述語動詞 has。
O “Leo” / Leo は後続する check の動作の担い手。
C “check the room” → O “Leo” / check the room は Leo が担う動作を表す。主節の主語 The manager は確認を手配する側であり、部屋を確認する動作の担い手とは異なる。
M “before each meeting” → C “check the room” / before each meeting は C の check the room が行われる時期を示す。

b. 和訳

直訳

マネージャーは各会議の前にレオに部屋を確認させる。

満点の訳

マネージャーは毎回、会議の前にレオに部屋を確認させている。

重要な誤読・許容差

「人＋動詞の原形」の関係を捉え、誰がその動作を担うかを確認する。マネージャー自身が部屋を確認すると読むのは誤りである。日本語では「確認してもらう」などの表現も、文脈と意味関係が保たれていれば許容できる。

3

授業の後に窓を閉めてもらいたい場面を考え、次の英文を読め。

Mia asked Ben to close the window after class.

a. 補語「to close the window after class」の内容と、その動作の担い手を対応させよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

3

a. 解答・根拠

「to close the window after class」は、授業の後で窓を閉めるという依頼の内容を表す。その動作の担い手は Ben である。依頼したのは Mia だが、窓を閉めるよう頼まれた相手は Ben であり、主節の主語と to 不定詞内の動作の担い手を区別する。

Mia　asked　Ben　to close 〈the window〉 (after class).
S　V　O　C

S “Mia” / 主節の主語。
V “asked” / 主節の述語動詞 asked。
O “Ben” / Ben は依頼された動作の担い手。
C “to close the window after class” → O “Ben” / to close the window after class は依頼の内容を表す。窓を閉める動作の担い手は Ben であり、依頼した Mia とは異なる。依頼が実行されたことまでは示さない。

b. 和訳

直訳

ミアはベンに、授業の後で窓を閉めるよう頼んだ。

満点の訳

ミアはベンに、授業が終わった後で窓を閉めるようお願いした。

重要な誤読・許容差

ask の後ろに続く「人＋to 不定詞」では、その人が to 以下の動作を担う。依頼したことは、実際に窓が閉められたことを保証しない。依頼の意味を保った自然な日本語の言い換えも許容できる。

演習問題

1

雨が降った後、庭を歩く場面を考え、次の英文を読め。

語注：

- dangerously：危険なほど、危険な状態で
- slippery：滑りやすい
- overnight：夜の間に、一晩にわたって（夜間に変化したことと、一晩続く状態のどちらもありうる）
- garden path：庭の小道

The storm left the garden path dangerously slippery overnight.

a. 補語「dangerously slippery」の内容と、その状態を表す名詞を対応させよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

2

学校行事の準備が進む場面を考え、次の英文を読め。

語注：

- paint：絵や模様を描く、塗る
- doorway：出入り口
- festival：祭り、催し

From the doorway, Liam watched the children painting a large poster for the festival.

a. 補語「painting a large poster for the festival」の内容と、その動作の担い手を対応させよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

3

台所で物音を聞いた場面を考え、次の英文を読め。

語注：

- drop：落とす（物を落とす）
- tile floor：タイル張りの床
- onto：〜の上へ

From the kitchen, Sara heard her brother drop a spoon onto the tile floor.

a. 補語「drop a spoon onto the tile floor」の内容と、その動作の担い手を対応させよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

4

博物館で見学者への対応をする場面を考え、次の英文を読め。

語注：

- visitor：訪問者、見学者

The guide let visitors take photos inside the museum.

a. 補語「take photos inside the museum」の内容と、その動作の担い手を対応させよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

5

週末の家庭菜園について話している場面を考え、次の英文を読め。

語注：

- help with：〜を手伝う、〜の手助けをする
- cousin：いとこ
- garden：庭、菜園

Nora wants her cousin to help with the garden this weekend.

a. 補語「to help with the garden this weekend」の内容と、その動作の担い手を対応させよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

6

図書館で本の返却期限について案内する場面を考え、次の英文を読め。

語注：

- librarian：図書館員
- return：返す
- by Friday：金曜日までに

The librarian told the students to return their books by Friday.

a. 補語「to return their books by Friday」の内容と、その動作の担い手を対応させよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

演習問題の解答・解説

1

a. 解答・根拠

「dangerously slippery」は、目的語「the garden path」の状態を表している。庭の小道が危険なほど滑りやすい状態にあるという関係であり、主語の「The storm」の状態を説明しているのではない。形容詞 C が何について述べているかを、O に戻して確認することが根拠となる。

〈The storm〉 left 〈the garden path〉 〔dangerously slippery〕 overnight .
S V O C M

S “The storm” / 主節の主語。
V “left” / 主節の述語動詞。
O “the garden path” / dangerously slippery が状態を述べる対象となる the garden path。
C “dangerously slippery” → O “the garden path” / dangerously slippery は目的語 the garden path の状態を述べる。
M “overnight” → C “dangerously slippery” / overnight は、夜の間に状態が生じたこと、または一晩その状態が続いたことを表しうる。

b. 和訳

直訳

嵐は庭の小道を、一晩の間、危険なほど滑りやすい状態にした。

満点の訳

嵐のため、庭の小道は一晩の間、危険なほど滑りやすい状態になっていた。

重要な誤読・許容差

「overnight」は、夜の間に状態が変化したことにも、一晩にわたってその状態が続いたことにも読める。この英文だけでは、どちらか一方に完全には限定できないため、「一晩の間」とし、特定の時点や変化の経過を付け加えない訳も許容できる。

2

a. 解答・根拠

「painting a large poster for the festival」は、目的語「the children」が担う動作を表している。子どもたちが祭りのための大きなポスターを描いているのであり、主語の「Liam」がポスターを描いているのではない。現在分詞 C の内容を O に戻し、動作の担い手を確かめることが根拠となる。

(From 〈the doorway〉) [M], Liam [S] watched [V] 〈the children〉 [O]

painting 〈a large poster 〔for 〈the festival〉〕〉 [C].

M “From the doorway” → V “watched” / From the doorway は見る位置を示す。
S “Liam” / 主節の主語。
V “watched” / 主節の述語動詞 watched。
O “the children” / the children は後続する painting の動作の担い手。
C “painting a large poster for the festival” → O “the children” / painting a large poster for the festival は、目的語 the children が行っている途中の動作を表す。主節の主語 Liam がポスターを描いているのではない。

b. 和訳

直訳

戸口から、リアムは子どもたちが祭りのための大きなポスターを描いているのを見ていた。

満点の訳

リアムは戸口から、子どもたちが祭り用の大きなポスターを描いているところを見ていた。

重要な誤読・許容差

現在分詞は、この文では進行中の動作に注目する。ポスターを描いているのは子どもたちであり、リアムはその様子を見ている。英文にない完成済みという情報や、ポスターを描いた後の結果を付け加えない。

3

a. 解答・根拠

「drop a spoon onto the tile floor」は、目的語「her brother」が担う動作を表している。スプーンをタイル張りの床に落とすのはサラではなく、彼女の男きょうだいである。知覚動詞 hear に続く動詞の原形 drop は、動作全体を捉える基本的な読みにつながる。

(From 〈the kitchen〉) [M], Sara [S] heard [V] 〈her brother〉 [O]

drop 〈a spoon〉 (onto 〈the tile floor〉) [C].

M “From the kitchen” → V “heard” / From the kitchen は聞いた位置を示す。
S “Sara” / 主節の主語。
V “heard” / 主節の述語動詞 heard。
O “her brother” / her brother は後続する drop の動作の担い手。
C “drop a spoon onto the tile floor” → O “her brother” / drop a spoon onto the tile floor は her brother が担う動作全体を表す。主節の主語 Sara がスプーンを落とすのではない。

b. 和訳

直訳

台所から、サラは自分の兄（または弟）がスプーンをタイル張りの床に落とすのを聞いた。

満点の訳

台所にいたサラは、自分の兄（または弟）がスプーンをタイル張りの床に落とすのを聞いた。

重要な誤読・許容差

原形 drop は、スプーンを落とすという動作全体を捉える。主語のサラがスプーンを落としたと読むのは誤りである。また、英語の「her brother」だけでは年上か年下かは分からないため、「兄」か「弟」のどちらかに断定せず、「兄または弟」などとする。自然な日本語の語順の違いは、動作の担い手と意味関係が保たれていれば許容できる。

©ミライコーチング

4

a. 解答・根拠

「take photos inside the museum」は、目的語「visitors」が担う動作を表している。博物館内で写真を撮るのは見学者であり、主語の「The guide」は写真撮影を許可する側である。let に続く O と動詞の原形の関係を確認し、許可する側と許可される動作の担い手を区別する。

〈The guide〉 let visitors take photos (inside 〈the museum〉).
S V O C

S “The guide” / 主節の主語。
V “let” / 主節の述語動詞 let。
O “visitors” / visitors は後続する take photos の動作の担い手。
C “take photos inside the museum” → O “visitors” / take photos inside the museum は visitors が許可された動作を表す。許可したことは、実際に写真を撮ったことを保証しない。

b. 和訳

直訳

そのガイドは、見学者が博物館の中で写真を撮ることを許可した。

満点の訳

ガイドは、見学者が博物館内で写真を撮ることを許した。

重要な誤読・許容差

let はここでは過去形であり、許可したことを表す。ただし、許可を与えたことだけでは、見学者が実際に写真を撮ったとは断定できない。「撮影させた」と訳す場合も、実行済みという意味を不当に加えないようにする。

5

a. 解答・根拠

「to help with the garden this weekend」は、目的語「her cousin」が担う動作について述べている。庭の手伝いをすることを望んでいるのは Nora であり、その動作を担う人として示されているのはいとこである。want の後ろに続く O＋to 不定詞の関係を確認し、希望する側と希望の内容を実行する人を区別する。

Nora (S) wants (V) 〈her cousin〉 (O) to help (with 〈the garden〉) (this weekend) (C).

S “Nora” / 主節の主語。
V “wants” / 主節の述語動詞 wants。
O “her cousin” / her cousin は to help 以下の動作の担い手として希望の対象になる。
C “to help with the garden this weekend” → O “her cousin” / to help with the garden this weekend は希望する内容を表す。庭の手伝いをする動作の担い手は her cousin であり、希望を持つ Nora ではない。希望が実現したことまでは示さない。

b. 和訳

直訳

ノラは、自分のいとこが今週末に庭の手伝いをすることを望んでいる。

満点の訳

ノラは、自分のいとこに今週末、庭の手伝いをしてほしいと思っている。

重要な誤読・許容差

want は現在の希望を表し、this weekend は希望する動作の時期を示す。いとこが実際に手伝うことになった、あるいはすでに手伝ったという意味は含まれない。また、her cousin だけでは、いとこの性別や年齢は確定しない。

6

a. 解答・根拠

「to return their books by Friday」は、目的語「the students」が担う動作について述べている。本を返すよう指示されたのは学生たちであり、主語の「The librarian」は指示を伝える側である。tell に続く O＋to 不定詞の関係を確認し、指示する側と指示された動作の担い手を区別する。

〈The librarian〉 told 〈the students〉 to return 〈their books〉 (by Friday).
S V O C

S “The librarian” / 主節の主語。
V “told” / 主節の述語動詞 told。
O “the students” / the students は to return 以下の動作の担い手として指示の対象になる。
C “to return their books by Friday” → O “the students” / to return their books by Friday は指示の内容を表す。返す動作の担い手は the students であり、指示した The librarian ではない。指示が実行されたことまでは示さない。

b. 和訳

直訳

図書館員は、学生たちに金曜日までに彼らの本を返すように言った。

満点の訳

図書館員は学生たちに、自分たちの本を金曜日までに返すよう指示した。

重要な誤読・許容差

told は過去の指示を表し、by Friday は金曜日を期限として示す。「金曜日までずっと返し続ける」という意味ではない。また、their books は学生たちに関係する本を表すが、原文にない「借りた本」などの属性を追加しない。指示が伝えられたことと、実際に本が返されたことも区別する。